

平成21年(2009年)12月期  
第1四半期

# 決算概要書

株式会社 船井総合研究所  
2009年5月1日(金)

## 1. エグゼクティブサマリー

## 2. 決算報告

(1) 連結収益状況

(2) 事業別経営成績

(3) 連結財務状況

## 3. 通期の見通し

## 4. 中長期ビジョンと重点戦略

## 【本資料に関する注意事項】

# 1. エグゼクティブサマリー

## 決算 報告

- 主力のコンサルタント事業の伸び悩みを主因として前年同期比減収減益で終了

| (連結業績) | 四半期実績   | 前年同期実績  | 前年同期比  |               |
|--------|---------|---------|--------|---------------|
| 売上高    | 21.06億円 | 22.12億円 | △4.8%  |               |
| 営業利益   | 3.07億円  | 3.52億円  | △12.9% | (営業利益率 14.6%) |
| 経常利益   | 2.78億円  | 3.75億円  | △25.7% | (経常利益率 13.2%) |
| 四半期純利益 | 1.02億円  | 2.10億円  | △51.6% | (四半期純利益率4.9%) |

- 財務状況は、有価証券等の現金化により現金及び預金は増加ながら、法人税等及び配当の支払いにより総資産は減少
- キャッシュフローの主な変動要因は、営業活動において売上債権の減少及び法人税等の支払い。財務活動での配当金支払い及び自己株式売却によるもの

## 通期の 見通し

- 以下計画達成を予想

| (連結業績予想) | 売上高         | 営業利益         | 経常利益         | 当期純利益         | ※カッコ内は前年同期増減率 |
|----------|-------------|--------------|--------------|---------------|---------------|
| 第2四半期累計期 | 47億円(△2.2%) | 7.6億円(0.2%)  | 8.0億円(1.0%)  | 4.5億円(△28.9%) |               |
| 通期       | 98億円( 1.4%) | 19.0億円(5.2%) | 19.5億円(2.5%) | 11.6億円( 1.0%) |               |

- 配当は、1株当たり中間10円、期末15円(年間25円)の予定

## 中長期 ビジョン

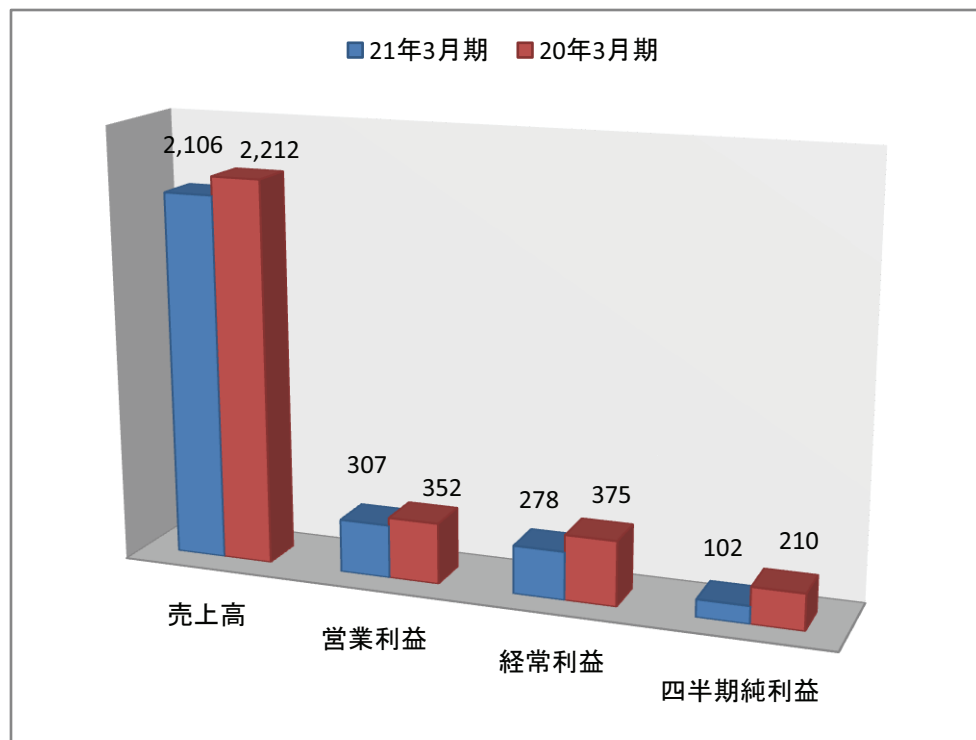
- 現在の景気低迷は、ここ数年は継続するものと推察されます。このような環境は、当社にとってチャンスであり、各企業の業績に比べて当社業績は堅調に推移するものと予測
- 人材の重要性が高い当社にとって、国内の雇用情勢悪化はチャンスであり、今後は採用枠を拡大し、優秀な人材確保に努めます
- これらの背景を活かし、平成22年12月期には以下の目標を達成します

| 連結売上高     | 連結経常利益  | 個別売上高    | 個別経常利益  |
|-----------|---------|----------|---------|
| 100～110億円 | 22～24億円 | 95～100億円 | 23～25億円 |

## 2. 平成21年12月期第1四半期決算報告

## (1) 連結収益状況

| <連結・単位(百万円)>       | 21年3月期 | 20年3月期 | 前期比    |
|--------------------|--------|--------|--------|
| 売上高                | 2,106  | 2,212  | -4.8%  |
| 営業利益               | 307    | 352    | -12.9% |
| 経常利益               | 278    | 375    | -25.7% |
| 四半期純利益             | 102    | 210    | -51.6% |
| 1株当たり四半期純利益<br>(円) | 3.66   | 6.88   | -      |



■ 売上は前年同期比4.8%減

■ 売上減の影響により営業利益・経常利益も減益

■ 四半期純利益は、投資有価証券の評価損及び少数株主利益の影響により、前年同期比で概ね半減の結果

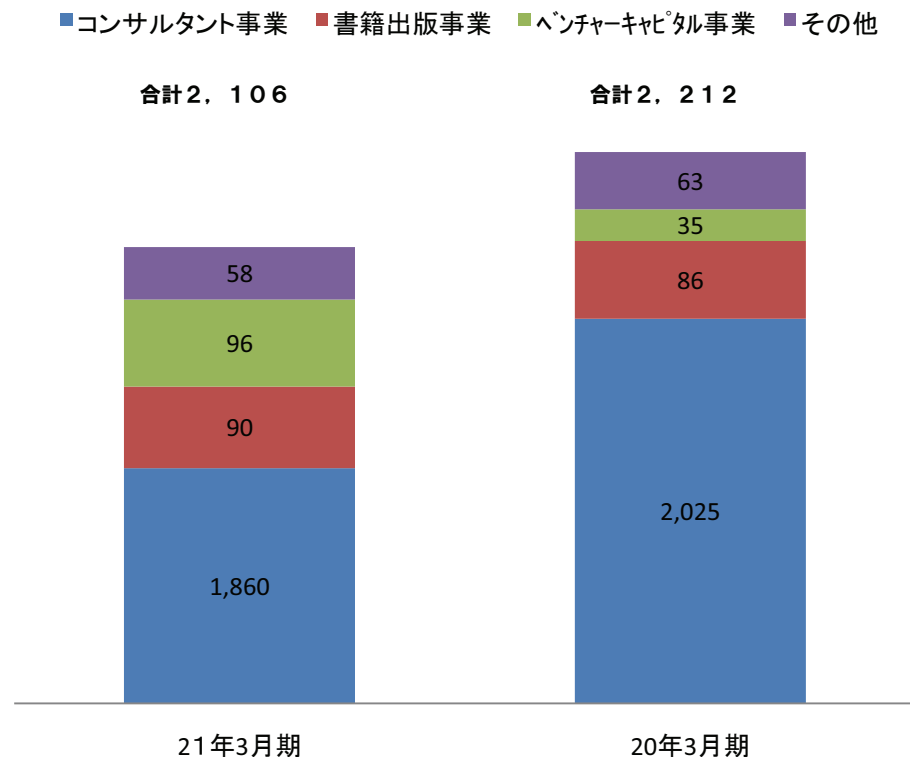
## (2)事業別経営成績

### 売上

| <単位・百万円>     | 21年3月期 | 20年3月期 | 増減率    |
|--------------|--------|--------|--------|
| コンサルタント事業    | 1,860  | 2,025  | -8.1%  |
| 書籍出版事業       | 90     | 86     | 4.4%   |
| ベンチャーキャピタル事業 | 96     | 35     | 170.5% |
| その他          | 58     | 63     | -8.4%  |
| 合計           | 2,106  | 2,212  | -4.8%  |

### カテゴリー別売上実績

単位：百万円



### 営業利益

| <単位・百万円>     | 21年3月期 | 20年3月期 | 増減率    |
|--------------|--------|--------|--------|
| コンサルタント事業    | 350    | 363    | -3.6%  |
| 書籍出版事業       | 7      | 13     | -42.7% |
| ベンチャーキャピタル事業 | -68    | -39    | -      |
| その他          | 14     | 12     | 16.3%  |
| 消去又は全社       | 2      | 2      | -      |
| 合計           | 307    | 352    | -12.9% |

- 主力のコンサルタント事業の伸び悩みで売上は前年同期比4.8%届かず
- その他事業は増益したものの、書籍出版事業、ベンチャーキャピタル事業は増収減益で、連結は減益

### (2)事業別経営成績

## コンサルタント事業

### 概要

1. 自動車関連業界、士業業界向けコンサルティングは好調を維持
2. 環境・農業、福祉業界向けは大幅な伸びを示す
3. Web関連、ヘルス&ビューティー、教育業界向けコンサルティングは堅調
4. これまで順調に伸びてきた中堅・大手向け戦略コンサルティングが、これらの企業業績悪化の影響で苦戦
5. 同じく好調だったリサイクル業界向けは、業態が一巡した影響で低迷
6. 建設不動産業界、流通業界は引き続き苦戦を強いられる

### 業績総括

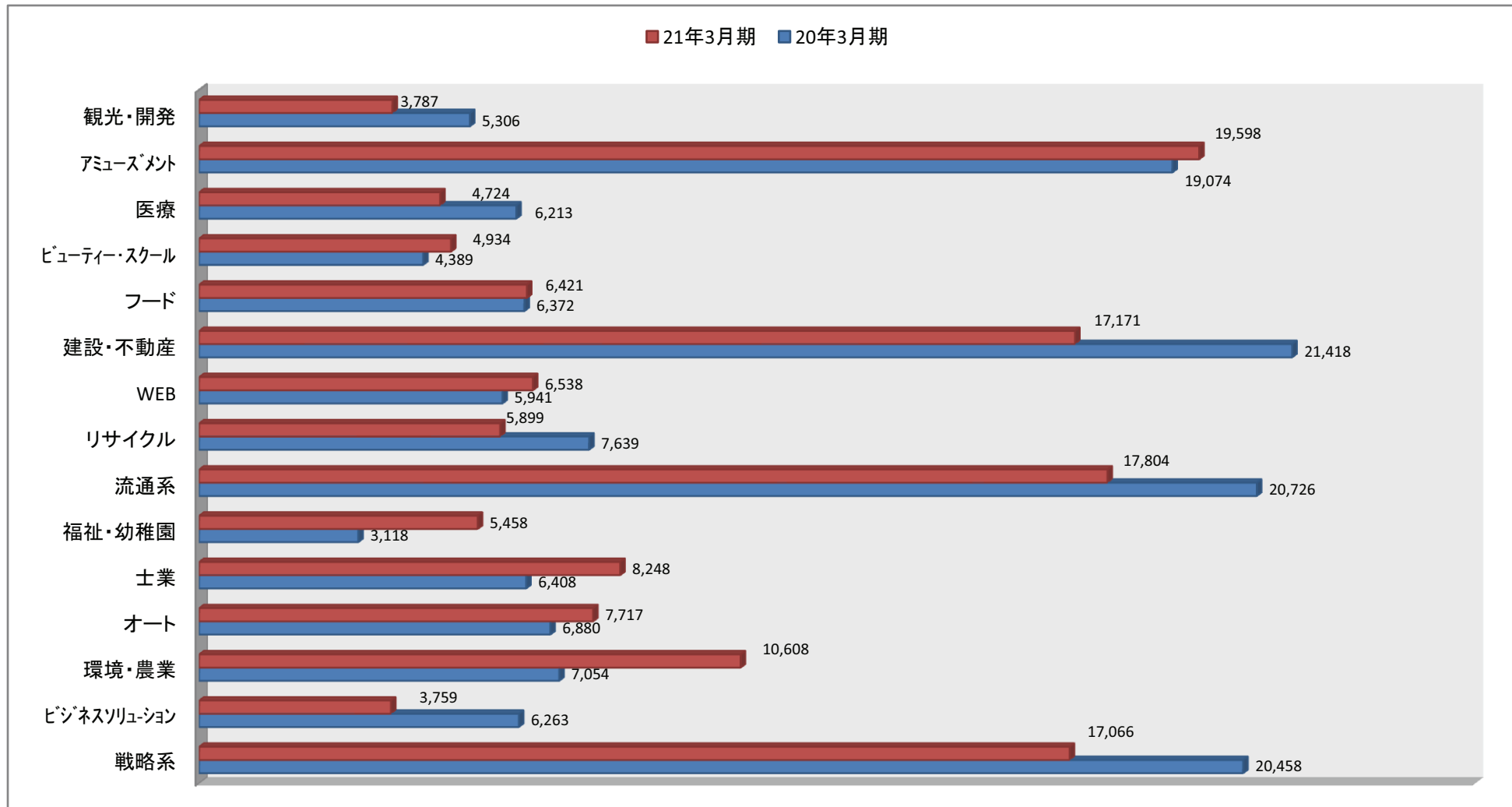
引き続き好調な事業分野と伸び悩む事業分野に大別される中、苦戦する分野を好調な分野でカバーしきれず、また経費面ではローコスト化を徹底してきましたが、前年同期比で減収減益の結果となりました。



## (2) 事業別経営成績

### コンサルタント事業の主な業種別業績動向

単位：万円



注意 上記数値は、各本部数値を除くグループ別粗々利実績をもとに算出した数値です。

### (2)事業別経営成績

#### 書籍出版事業

収益性向上を推進するため編集企画の改革や経費削減に努めましたが、書籍部門においてヒット作を刊行することは出来たものの、大型企画による売上増加を図ることが出来ずに、増収減益の結果となりました。

#### ベンチャーキャピタル事業

投資先企業の業績悪化に伴い、保有投資有価証券の評価損を予定より早く計上することになりましたが、一部の投資有価証券の流動化が実現し、売却益を計上することが出来ました。

#### その他事業

IT関連事業において、重点戦略であるITアウトソーシング業務の実績の伸び悩みにより減収となりましたが、スタッフの技術力向上、既存顧客との関係性強化、並びに経営の効率化を図った結果、増益を確保することが出来ました。

### (3) 連結財務状況

#### 総資産と負債・純資産

| <単位・百万円>  | 21年3月期 | 20年12月期 | 増減額  |
|-----------|--------|---------|------|
| 流動資産      | 6,453  | 7,027   | -574 |
| 有形・無形固定資産 | 6,910  | 6,934   | -23  |
| 投資その他の資産  | 2,211  | 2,284   | -73  |
| 総資産       | 15,575 | 16,247  | -671 |

| <単位・百万円> | 21年3月期 | 20年12月期 | 増減額  |
|----------|--------|---------|------|
| 流動負債     | 1,657  | 1,990   | -333 |
| 固定負債     | 731    | 812     | -80  |
| 純資産      | 13,186 | 13,443  | -257 |
| 負債・純資産合計 | 15,575 | 16,247  | -671 |

#### キャッシュフロー

| <単位・百万円>   | 21年3月期 | 20年3月期 | 増減額  |
|------------|--------|--------|------|
| 営業活動によるC/F | 281    | 398    | -117 |
| 投資活動によるC/F | -37    | -31    | -6   |
| 財務活動によるC/F | -316   | -147   | -168 |

■財務状況は、保有する有価証券及び短期貸付金の現金化により、現金及び預金は増加となりましたが、法人税等及び配当の支払いにより、総資産は減少しました。

■キャッシュフローの主な変動要因は以下のとおりです。

営業活動において、税金等調整前四半期純利益の減額により対前年同期比で減額  
 投資活動による資金は、有価証券等の取得及び売却並びに無形固定資産の取得によるもの  
 財務活動による資金は、配当金の支払い及び自己株式の売却による収入によるもの

### 3. 通期の見通し

## 連結業績予想

| <単位・百万円> | 第2四半期連結累計期間 |        |       | 通期    |      |       |
|----------|-------------|--------|-------|-------|------|-------|
|          | 予想          | 前期比    | 前期実績  | 予想    | 前期比  | 前期実績  |
| 売上高      | 4,700       | -2.2%  | 4,805 | 9,800 | 1.4% | 9,665 |
| 営業利益     | 760         | 0.2%   | 758   | 1,900 | 5.2% | 1,806 |
| 経常利益     | 800         | 1.0%   | 792   | 1,950 | 2.5% | 1,902 |
| 当期純利益    | 450         | -28.9% | 632   | 1,160 | 1.0% | 1,148 |

## 個別業績予想

| <単位・百万円> | 第2四半期累計期間 |       |       | 通期    |      |       |
|----------|-----------|-------|-------|-------|------|-------|
|          | 予想        | 前期比   | 前期実績  | 予想    | 前期比  | 前期実績  |
| 売上高      | 4,300     | -1.2% | 4,351 | 9,000 | 1.6% | 8,859 |
| 営業利益     | 950       | -3.0% | 979   | 2,100 | 1.7% | 2,064 |
| 経常利益     | 920       | -3.7% | 955   | 2,100 | 0.3% | 2,093 |
| 当期純利益    | 400       | -7.2% | 430   | 1,050 | 7.0% | 981   |

通期の予想達成は、主力であるコンサルタント事業の業績にかかっていますが、

1. 不況期は、新たなビジネス開発、業態開発(キーワードは「コモディティ」)が進むことから、これらを支援する役割を果たすことが重要であり、好調な現場支援業務実績をベースとした成功事例の共有化の推進による組織力を活かした展開
2. 顧客資産の基盤強化並びに全社的活用への地盤が整ったため、組織横断的な全面的対応により、広範囲な経営支援サービスの提供での受注拡大
3. 外部企業とのアライアンスの実現による新たな受注構造の構築

上記施策等により、通期は予想の業績を果たせるものと考えております。

※但し、世界経済の今後の動向は予断を許さない状況でありますので、その状況により当社グループ業績に影響が出る可能性もあります。

## 4. 中長期ビジョンと重点戦略

## 今後の中長期ビジョン

米金融危機に始まった世界経済不況は、ここ数年は続くものと推察されます。各企業は新たな経済局面を打開する施策を講じなければならない状況下であり、新たな経営戦略の構築とこれに基づく事業展開をしなければならない時期であります。

このような背景は、当社のコンサルティング事業にとっては恵まれた環境と考えることができます。事実、過去の歴史をみても、不景気の入り口にあたる時期に当社コンサルティング事業は業績を伸ばす傾向がみられることから、今後の経済情勢に順応できるものと考えております。

また、経営資源の中で人材の重要性が極めて高い当社グループにとって、国内の雇用状況の悪化はチャンスとなると考えており、今後は採用枠を拡大して、優秀な人材確保に努め、中期的な業績拡大基盤とすると同時に、企業としての社会的責任を果たしてゆきたいと思っております。

今後は苦戦を強いられる企業が多くなると予想される中、当社はこの状況を追い風に業績を拡大させ、平成22年には以下のような目標を達成し、企業価値を高め、株主の皆様還元できるよう努力してまいります。

### 平成22年12月期の到達目標

| <単位・百万円> | 目標            |
|----------|---------------|
| 連結売上高    | 10,000～11,000 |
| 連結経常利益   | 2,200～2,400   |
| 個別売上高    | 9,500～10,000  |
| 個別経常利益   | 2,300～2,500   |

### 重点戦略

当社グループはこの成長を確固たるものとし、知識と情報を駆使して世の中により貢献できる企業として発展するために、以下の施策を考えております。

- ①グループ力向上のためのマネジメント体制の見直し、及びCSRに立脚した内部統制、環境対策等への先進的取り組みの実施
- ②優秀なコンサルタント人材の積極採用、及びその育成を目的とした人事評価制度の見直し
- ③伸びている分野： 土業、web、リサイクル、ヘルス&ビューティー  
伸ばしたい分野： 環境、農業、ブランディング、海外市場、大手流通業の再生ビジネスへのコンサルタント事業の本格的展開
- ④中堅大手企業からの安定的受注を目指し、金融機関や大手広告代理店、メディア企業等とのアライアンスの積極的展開
- ⑤営業に直結した投資、及びM&A等の積極的検討



本資料に掲載されております計画や見通し、戦略などは、現時点において入手可能な情報や合理的判断を根拠とする一定の前提条件に基づいた当社の判断による予測です。

従いまして、実際の業績などは、今後の様々な要因により、これらの見通しとは大きく変動する場合があります。

本資料の掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤りによって生じた損害などに関し、当社は一切責任を負うものではありませんので、ご了承ください。

本資料は投資誘導を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断において行われるようお願い致します。

## IRに関するお問い合わせ先

株式会社 船井総合研究所

スタッフ統括本部 総務部 浜口 朗

TEL: 03-6212-2923 FAX: 03-6212-2940

Mail: [ir@funaisoken.co.jp](mailto:ir@funaisoken.co.jp) URL: <http://www.funaisoken.co.jp>